

令和六年度 中学生の「税についての作文」

沖縄県納税納貯蓄組合連合会会長賞 税金と私の家族

南城市立久高中学校 棚座 花

私の大阪の家では、私と両親そして百二歳のおじいちゃんと暮らしている。おじいちゃんは、数年前まではおばあちゃんと一緒に滋賀まで電車で行くほど元気だったが、一年ほど前から段々と体が弱ってきて、今ではほとんど寝たきりでご飯も固形の物は食べられない状態になっている。

そして、そんなおじいちゃんのお世話をするのは両親だけではない。介護士の方やお医者さん、看護師さんなど様々な人が家にやってきて、おじいちゃんのお世話や診断をしてくれる。一日に三回も来てくれるため、私はそこまでしてもお金は大丈夫なのかなと気になる、両親に質問し、さらにネットで調べることにした。

調べてみると、介護には税金からの負担があるらしくその中でも介護の必要な度数が5段階に分けられていて、それぞれ負担額が違いうそうだ。私のおじいちゃんは今要介護4で金額の三割が税によって負担されている。一日のうちに三回も介護をしてもらっており、さらにはおむつ、一時期は家の中に手すりの設置も行っていたため、そのうちの三割となると相当な額になっているだろう。

現在、日本で高齢者一人にかかる費用は年間で平均約五百万円になっている。そして、2018年頃からの高齢者への年金や介護費の負担額は年間約十一兆円にまで上っており、そのうちの五〇％が税金から出ている。

高齢化の進んでいる現在の日本では、更に負担額は増えているであろう。

しかし、ここで考えるべき点は税金がないとどうなるかということだ。高齢者は少しの怪我でも命に関わるため、そういった場合救急車を呼ぶ。命が危ないときに救急車を呼ぶなんて、日本では当たり前のことだ。しかし、海外では呼ばない場合が多い。それはなぜか。海外で救急車を呼ぶと、最小限に抑えても六万円もかかるからだ。これは、海外では税金がない地域があるため生じる。こう考えると税金一〇％でも、救急車を呼び、ちゃんと受診できる日本はすごいのではないだろうか。

日本では高齢者のために、年金や介護費の負担、医療関係の充実など様々なことに税金が関わっている。私のおじいちゃんは、こうした日本の仕組みの中で介護を受けることができ、今でも百二歳という年齢で生きることができている。こういうことから私は、私達若者が税金をちゃんと支払い生活していくことが大切だと思った。

皆さんは自分達の未来がどうなっていてほしいですか？

自分がお年寄りになったとき、社会の仕組みはどんなものが良いでしょうか。もし税金がなければ、私達の未来はどうなっていくのでしょうか。今一度考えながら日々を過ごしてみましよう。